

## ●景気はかなりいいらしい？

歳のせいとかどうか鬱々と気分の晴れない中、追い討ちのような梅雨入りですが、政府や日銀に言わせれば、景気は良いのだそうです。いささか旧聞に属しますが、4月3日発表の日銀短観によれば、大企業・製造業の景況感は2四半期連続の改善とのこと。また、4月27日の金融政策決定会合で日銀は、景気の基調判断を「緩やかな拡大に転じつつある」と上方修正しました。この「拡大」という言葉が使われたのは、リーマン・ショック直前の2008年3月以来9年ぶりのこととか。

さらに、以前から現政権や支持・支援する方々が、アベノミクスの成果として事あるごとに強調する雇用面で、えもいわれぬ数値が出てきました。この4月の有効求人倍率がなんと、1974年2月以来43年ぶりに1.48倍になったというのです。1974年＝昭和49年といえ、手前味噌ながら筆者自身が社会人として働き始めた年ですし、その前年は第一次石油ショックによる狂乱物価の大嵐が吹き荒れた年で、新米社会人にも世の中が大きく動いている実感がありました。そんな時代に匹敵するような雇用状況というのですから、これは政府・日銀が言うように相当な好景気に違いない！？

もっとも今週8日には、速報値で年率換算2.2%増となっていた1～3月期実質GDPが1.0%増と下方修正され、生活実感に近いとされる名目GDPのほうは前期比0.3%減と発表されるなど、「拡大」という形容が相応しくない話はたくさんあります。

たとえば同じ雇用面で、失業率が2.8%と完全雇用に近い状態なのに、全体の「就業時間数」は増えていないといいます。働く人は増えているのに全体の働く時間が増えないということは、短時間しか働かない人が増えているだけで、量としての「雇用」全体は増えているわけではないこととなります（服部茂幸『偽りの経済政策』岩波新書71頁～参照）。

## 野田眞のこんなの発見(41)

### アベノミクスから超アベノミクスへ？

野田 眞 生活経済ジャーナリスト

私たちの「生活経済の将来」という観点から対象・テーマを選び、実際の見聞・体験を通じて知り得た・学んだ・考えさせられたことを、できるだけ鮮明にお伝えします。

### ●もう一段の防衛モードへ

しかし、ここは四の五の言わずに、政府・日銀見解に諾々と従っておこうかと思えます。そうすると、日銀の4年越しの目標である物価のコンスタントな2%上昇が間近に迫っていることとなります。結局は首相の戦術的妄想だった観のある「リーマン・ショックの再来があるかも」などという手も2度目は考えづらいので、2019年10月の消費増税も公約通り必ず行われることでしょう。

そうなれば、不動産は持っておらず株式資産も僅かで、来年からは主たる収入が公的年金だけとなるわが家は、その年金が経済情勢と同じようには増えることがなくなって確実に目減りしていきます。つまり、わが家の暮らしは、永田町や日本橋千石町が好景気でもジワジワと苦しくなるのが目に見えています。現に、「拡大」する景気をよそに、4月から年金の支給額は僅かですが減りました。もし大きな病気に罹ったら、介護が必要になったら…などと考えるとぞっとします。公的医療・介護保険料負担も増え続けることでしょう。

もちろん今も贅沢などしていませんけれども、より一層生活防衛モードを強め、下手にお金を使わないようにするのが、私たちのような立場の年金生活者にとっては、大変合理的な行動、ということになります。「好景気」をよりふかしたい政府は、『プレミアム・フライデー』に続いて『キッズウィーク』なる休み方改革制度を導入し、個人消費の盛り上げを図ろうとしています。仮に盛り上がったとしても、指をくわえて眺めているほかなさそうです。

### ●本当は、状況はずっと悪い？

さて、これまで申し上げた程度で

収まれば、まだましというものですが、筆者の実感はずっと深刻なものです。好景気で「拡大」中というのなら流れに任せておけばいいはず。また、異常とも言える金融緩和を少しずつでも手仕舞いに向けてはどうなのでしょう。

しかし、実際の動きは逆です。日銀は年80兆円もの国債購入をそのまま続けています。政権（首相）は、先述のようにそう効果的とは思えない手をあれこれ編み出す一方、「借金を気にせずもっと財政出動を」「物価目標達成までは増税封印を」「国債の永久債化を」などと奨める外国人学者（スティグリッツ米コロンビア大教授、シムズ米プリンストン大教授など）や投資家（ジョージ・ソロス、アデア・ターナーなど）の進言に、熱心に耳を傾けているといえます。アベノミクスと異次元金融緩和は、本当は失敗中ということ。だからそんな話を聞かねばならない。

いずれも増税→財政再建を棚上げし、もっと借金して景気を刺激せよという話です。札束による類の叩き具合が足りないらしい。3度目の増税延期があるとすれば、理由は五輪？「超アベノミクス発進！」というような威勢のいい言葉が使われそうですね。

ひょっとすると結果的にはうまく行くのかも。ですが、ただでさえ先進国最悪の財政はどうなるのでしょうか。誰がどう借金を返すのか。失敗すれば、少しずつ出口に向かった場合にでも起こるとされる混乱をはるかに凌駕するような、とんでもない円安と超インフレが襲ってくるようになります。どちらにせよ、引き受けるのは私たち国民以外にはありません。そういうことへの世間一般の関心の希薄さこそが、いちばんの「危機」なのだと思います。